令和５年度第３回東北森林管理局国有林材供給調整検討委員会（概要）

１　開催日時　　令和５年 12 月 20 日(木)　15：00～17：00

２　場　　所　　東北森林管理局　２階　大会議室

３　出 席 者　　高田委員、黒瀧委員、小野寺委員、一条委員、大坂委員、児玉委員、安部委員

４　検討結果　　木材需要は木造戸建を中心として住宅実需の回復が見られないことにより低迷を続けている。大型工場の本格的稼働に向けた新たな原木集荷の効果は、今のところ感じられない。また、既存の工場では受注制限が続いている。

製品等の需要は当用買いが多く在庫に不足感はないが、集成材工場は受注量が増加し生産量・販売量の増産を始めている。LVL 工場はフル生産が続いているが適正在庫を維持した受入れと計画消費を実施している。合板工場は生産調整を継続しているが、生産・出荷は増加傾向にある。

ウッドショック以降続く原木価格の低迷から、原木の出材量は減少したままである。一方、国産材製品への引き合いは上向き傾向にあり、製材工場は原木の手当てを急いでいるが、素材生産事業者の作業体制が整っていないことや、手山に戻るタイミングが遅れる見通しであることから、供給量が不足することが見込まれ、それに伴い原木価格が上昇局面に入ることが期待される。

以上のことから、国有林に対しては、「現時点での供給調整の必要性はないが、引き続き管内の市況や需給動向を注視するよう求める」と報告する。

５　主な意見

○　合板工場は減産が続いている一方で、LVL 工場はフル生産が続いている。春先から秋口まで伐採調整を促したが、製材所を中心に原木不足が生じた。このことにより、製材用、集成材用、LVL 用で原木価格は値上げ傾向にある。素材生産事業体は長期の伐採抑制により作業体制が整っていないことに加え、新規大型工場の集荷が始まっていることから、今後も民間の出材量がピークを迎えるまでは原木不足が加速すると思われ、それに合わせて原木価格も高値で推移すると思われる。

○　製紙用広葉樹原木の入荷量が増加傾向にある一方で製材用スギ原木や燃料用原木は不足している。集成材も受注量の増加から生産・販売量が増加しており、今後も高水準で推移する見通しであることから原木不足の懸念がある。原木やラミナ価格が供給不足によって上昇局面に入る見通しである一方で、製品価格は値上げを唱えられる状況にないことから、工場はより厳しい状態に陥ると予想される。

○　素材の入荷量は４～９月までの平均に対し、10 月は 130%、11 月は 140%と 10%ずつ増加している。内訳は合板・集成材の割合が７%ほど減少し、その分燃料材が増加している。原木不足は管内外で見られており、原木価格は上昇傾向にある。国有林の公売において職員の若返りによる応用力低下がみられる。経験豊富な再雇用者を付けることで改善できれば、より流れがよくなるのではないか。

○　製品需要は停滞が続いている。素材価格は、新規大型工場の集荷開始直後は影響を受けてやや上昇傾向にあったが、現在は落ち着いている。一方で、中国向け輸出については、今後、同工場の集荷によって原木を集めることが難しくなるのではないか。また、同工場の検知については、曲がりについて厳しく A 材だと思ったものが B 材になってしまったなど戸惑いの声も聞こえている。

○　合板工場は生産調整を継続しているが、生産・出荷量は増加傾向にある。一方で、戸建て住宅需要に回復感は見られず、停滞感は強くなっている。先々の需要も不透明であるため、製品需要は当用買い中心となっている。原木価格はスギ・カラマツともに保合であり、出材量の減少から今後は強気調となると予想する。一方、製品価格は在庫補充中心の引き合いの弱さから、今後も弱保合で推移すると予想される。

○　素材は、入荷量が少なく販売量も減少している。集成材工場では来年の一時増産を見込んで集荷量を上げたいが、出材量が少なく増やせていない。合板工場が受入れ制限中である一方で、バイオマスは原木不足が続いている。製品は、不需要期を前に入荷を抑える動きがあり、増産はスギ集成柱材のみである。素材も製品も、大手企業が価格を下げると周りも追従せざるを得ないという現状があり、これをどのように調整するかが今後の大きな課題となると思われる。